

令和6年度 学校自己評価システムシート（秋草学園高等学校）

目指す学校像

学校関係者
事務局(教職員)

4人
4人

達成度

A

ほぼ達成

(8割以上)

B

概ね達成

(6割以上)

C

変化の兆し

(4割以上)

D

不十分

(4割未満)

「礼節」、「勤勉」、「協調」の精神を涵養し、「愛され信頼される女性」を育成する学校。
生徒一人ひとりを大切にし、生徒の「やってみたい」を「やってみる」にする学校

重点目標

1. 挨拶の励行、道徳心の育成を通じ、建学の理念の具現化を図る。

2. 学習の習慣化・授業の充実を通じ主体的な学びを身に付けさせ、進路希望の実現を図る。

3. 生徒募集・広報活動に全員体制で取り組み、入学者を増やす。

4. 教職員の意識改革・学校改革を推進し、よりよい秋草学園の創造を図る。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				令和6年度 評 価（ 3月31日 現在 ）			
番 号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達 成 度	次年度への課題と改善策
1	1 挨拶は、本校の教育方針の一つである「礼節の心」の育成に関わるものであるが、日々の高校生活において更に定着させる必要がある。 2 時間を守る、清掃活動を通じて校内美化を徹底する、授業に集中する等により、「勤勉の精神」を更に高める。 3 日頃の各クラスでの活動、部活動、学校行事、生徒会行事を通じて、「協調」して行動することの大切さを身につけさせる。	1 様々な場面で心のこもった挨拶ができているか。 2 ①チャイムと共に授業が開始できて更なる定着させる必要がある。 ②校内の清掃がきちんと行われているか。 ③授業規律は守られているか。 3 各クラスで生徒が協力して日頃のホームルームの活動や行事に取り組んでいるか。	校長講話、担任による日頃の教育活動で礼節・勤勉・協調の精神を常に念頭に置いた指導を行う。 1 ①毎朝、教職員や生徒が校門に立ち、心を込めた挨拶をする。 ②授業や集会などの始めと終わりにしっかりと挨拶をさせる。 ③伝統的な行事を通じて育成する。 2 ①校舎内巡回担当が確認する。 ②各ホームルームで清掃指導を徹底すると共に清掃箇所の監督教員がしっかりと指導する。 ③授業担当、担任が相互に意思疎通をはかり、授業規律を確立する。 3 部活動、各行事の指導で常に組織を意識した指導を行う。	1 ①教職員自らが率先垂範で挨拶ができているか。 ②教員が毎朝校門に立ち、生徒への挨拶指導が実施できたか。生徒の学校生活での挨拶が定着したか。 ③伝統的な行事を通じて建学の理念を学ばせる事ができたか。 2①HR・授業でのチャイム着席が徹底できているか。 ②各箇所で清掃に熱心に取り組んでいるか。廊下等にゴミが落ちていないか。 ③授業担当と担任の意思疎通が図れているか。 3 ①綿密な活動計画の下、運営されているか。 ②顧問と担任間の「報連相」が行われているか。 ③各行事に対して生徒の主体性を育むことができたか。	1①概ね良好である。 ②概ね良好である。 ③行事の際に、その意義を伝え、理解を深めている。 2①概ね良好である。 ②清掃に関しても概ね良好である。 ③概ね良好である。 3各行事を通して、協調、勤勉、礼節の大切さを学び、実践することができ、生徒の成長へとつながった。 3部活動では世代交代があり、2年生は中心学年としての自覚が芽生えてきた。各部が切磋琢磨して活発に活動している。	A	1①相手と視線を合わせた挨拶の励行。教職員も打ち合わせ時等における挨拶の励行。 ②挨拶の実践と共に2年生の週番活動、またHR等を通じて、意義を理解させる。 ③行事ごとに生徒の成長を感じるが、教員に頼ることがまだ多くみられる。教員はきっかけ作りの支援を行う。 2①授業担当者がチャイム前に教室へ行くことが課題。移動教室は遅れる生徒が出ないよう、委員長からの声がけ等の工夫が必要。 ②清掃の手順を改めて示し手順を確立させ清掃区域によって差が出ないようにする。③個人情報取り扱いに留意し、綿密に連絡を取り合う。 3 生徒主体の部活動づくりを行う。
2	1 基礎学力の定着が十分でない生徒が少なくない現状があり改善の必要がある。 2 新学習指導要領に基づく新教育課程の開始に伴い、授業研究、教材研究の充実が一層求められている。観点別評価の円滑な実施が求められている。 3 生徒の主体的な学びを促すためのAL型授業の推進と教材の工夫、ICTの活用が必要である。	1 ペネッセの基礎力診断テスト、スタディサポート等の結果において基礎力が定着し学力が向上しているか。 2 生徒の実態に合った学習指導計画が立てられたか。各教科で授業研究・教材研究が進められたか。観点別評価が実施出来たか。 3 AL型授業の実践がなされているか。ICT活用の準備がなされているか。	1 基礎力診断テストやスタディサポートの結果に基づいた教員の研修会を実施し、その後の指導に活用する。 2 ①生徒による授業評価を活用する。 ②研修会の実施により、教員の実践力を高める。 3 ①授業研究旬間、研修会等を通して授業力を向上させる。 ②ICTの活用をはかる。	1 ①過去からのデータの推移比較の結果はどうか。 ②研修会では実施できたか。 2 ①生徒の授業評価の結果はどうだったか。 ②研修会を実施し、研修会の成果をその後の教育活動の充実に活用できたか。観点別評価は円滑に進められたか。 3 ①生徒による授業評価や教員間の授業研究・教科会が活用できているか。 ②授業でのICTの活用が進んだか。	1①1学期と2学期の比較を見ると、下降傾向であった。 ②ペネッセによる分析会を1学期と2学期に実施した。 2①授業評価について、否定的な回答も散見された。 ②各自の反省にとどまっている。 3①授業研究旬間を実施した。 ②ほぼすべての授業で活用が進んでいる。	B	1①数値上の結果についても、注視し意識を高めていく必要がある。 ②次年度以降も継続し、前年度より結果を向上させる。 2②授業評価について、今後全体での研修や活用について検討の必要性がある。 3①授業研究について、授業評価で高得点だった教員からの工夫している点の伝達など、活用方法の工夫も検討すべきである。 ②全体で効果的な活用について情報共有する機会が必要である。
3	1 時機をとらえた中学校訪問・塾訪問を行うとともにホームページやSNS等を活用した効果的な学校紹介が求められている。 2 本校の認知度を上げ、オープンスクール・学校説明会・入試相談会等への参加者を増やすことで安定した募集定員(260人)の確保が求められている。 3 進路実績を向上させて中学生・保護者及び中学校・塾関係者の期待と信頼を高め、生徒募集の増加を図る必要がある。	1 本校のホームページの閲覧回数が増えたか。募集ツールの評価が高いか。 2 オープンスクールや学校説明会に参加する中学生が増えたか。 3 ①進路決定率100%を実現できたか。 ②大学合格実績が向上したか、難関大学進学者が増加したか。 ③看護医療系の進学希望が実現したか。	1 ①SNS等の活用等動画を有効に利用しホームページの工夫・改善を図る。 ②各種アンケートを活用し、募集ツールの質を高める。 2 出前授業、上級学校訪問の積極的な受け入れ等により中学校との連携を強化する。 3 ①『進路の手引』や『進路冊子』の活用や進路ガイダンスの充実を図る。進学に向けた予備校講座、進学セミナー、スタディサプリ等の活用を推進する。 ②指定校枠の増加を図る。各大学と密な連携を行う。 ③ 各種セミナー、ガイダンス、チャレンジプログラム等を充実させる。	1 SNSの広報での活用ができたか。閲覧回数は増えているか。 2 本校受験の出願者が募集定員を超え、単願260人、併願590人以上に、入学者が300人以上になったか。 3 ①国公立 3人、早慶上理3人、GMARCH 10人、成成国武明学15人、日東駒専20人の合格者が出せたか。 ②就職決定率100%を達成できたか。 ③看護医療系進学希望を100%実現できたか。	1. SNSとくにTIKTOKについては情報管理の視点に立ち中止をする。同時にHPがリニューアルしたこともあり、HPに集約した。 2. オープンスクールや学校説明会に参加する中学生を増やす取り組みを行う。出願者増につながるよう取り組みを増やした。 3. 併設校への進学者は学年の16%にとどまり、目標である2割には達しなかった。年々併設校への進学希望者が減少傾向にあり、併設校の魅力を伝えられるよう早急な対応が求められる。 ①一般選抜の結果として、共通テストにおいても生徒が本来の実力を発揮し、日ごろの指導の成果が表れた。	B	1. TIKTOKのかわりにリニューアルしたHPは、中学生の保護者からの評判は良い。 2. 出願者増加への臨時説明会・相談会の回数や時間延長を行った結果、相談件数は伸びた。半面、出願件数につながらず広報での分析・協議を重ねる。 3.現在、立教、法政、國學院、武蔵、日東専への合格者が出ている。その他国公立、早稲田は今後発表となる。併設校への進学志望者を増やすために、早急な対応が求められる。進路指導部、幼保コース、高短連携委員会が一丸となって対応する必要がある。

学校関係者評価
実施日 令和7年3月1日
学校関係者からの意見・要望・評価等
・挨拶の励行について、学校に訪問すると生徒たちより丁寧な挨拶をもらえる。学校行事の際の生徒たちの対応も大変優しい。本校を卒業した生徒たちと話をする機会があるが、変わらない姿勢で対応してくれるため、感謝している。 ・生徒たちが校門で学校に向かって一礼をする姿がよく見かける。生徒たちの礼儀正しさは同僚間でも評判である。 ・A評価で異議なし
・ICTの具体的な活用内容について(電子教科書を活用しての授業展開、動画等の視聴も含めた活用、調べ学習での活用他)、将来にも通じる力の育成がされている点、機器が有効活用されている点に関して評価できる。 ・さらなる活用の展開を期待しB評価に異議なし
・秋草短大の教授を招き、生徒向けおよび教員向けの講義を実施していることについて、秋草短大の魅力を知る良い機会になるという点で評価できる。 ・生徒募集で相談件数の増加に対し出願数に結びつかない点について、委員の事業所と類似する状況があると感じられる。女子校不人気の傾向、本校における授業料値上げの影響等の状況があるかもしれないが、今後の方策として、SNSを活用して本校の良さを理解してもらえよう情報発信をしていくことが考えられる。 ・B評価で異議なし

4	1 大学入試改革、生徒指導提要の改訂に対応した教員の研修が必要である。 2 授業力向上、防災・不審者対応などの危機管理対応等の研修の充実が必要な状況である。 3 働き方改革に対応した業務の見直し、改善が喫緊の課題となっている。	1 校内外での研修に教員が参加しているか。研修の成果が教育活動に反映されているか。 2 教育力を高めるための研修が実施されているか。必要な情報が共有されているか。 3 各分掌で業務の見直し、改善への取組が行われているか。教職員の在校時間の縮減がはかれたか。	1 校内研修を実施すると共に校外の研修参加を奨励する。教職員一人一人が学校改革に向けて主体的に取り組む姿勢を醸成する。 2 情報共有を図ると共に、分掌・学年・個人からの学校改革についての意見を積極的に取り入れる。 3 各分掌・学年で担当業務を見直し、不要なものを洗い出し改善を進め業務を効率的に行う。	1 ①大学入試、新学習指導要領への理解が進み、取組が円滑に進んでいるか。 2 ①部長や主任がそれぞれの関係する事案を把握しており、校長、副校長、教頭と必要な連携がとれているか。 ②各教職員が、組織の一員として職務上の役割を主体的に果たしているか。 3 各分掌・学年での業務の見直し、不要業務の洗い出しが行われ業務の削減がなされたか。教職員の在校時間の縮減が行われたか。	1①大学入試については特選のみならず、学校全体として理解を深めていく必要性を感じる。年内入試では「総合的な探究の時間」に関する質疑応答が多くみられ、来年度以降の内容強化が求められる。 2①概ね良好である。 ②概ね良好である。 3不要業務については、意見を聞き入れ、可能なところについて変えている。	B	1①喫緊の課題である。何を目標とするか、共通理解を図る必要がある。 2①報道相は重要である。リスクマネジメントの観点からも引き続き行う。 ②組織の一員として主体的に働くためには、共通目標とコミュニケーションが重要である。これらについて意識を高めていく必要がある。 3マインドセットの変更が必要である。
---	---	--	--	---	---	---	---

・総合的な探究の時間で、1年は地域課題、2年はSDGs、3年は進路探究を行い、自ら考え発表する活動を重視していることについて、それらの力は卒業後も生かすことができると評価できる。 ・防災訓練では消防署と相談して、事前に発火元を知らせず緊急放送時に初めて知らせる訓練を始めたことは、急な情報で適切な対応ができるか、教員も本当に動けるか等の検証ができ、良いと思う。 ・B評価で異議なし
--